

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770300329		
法人名	医療法人社団五色会		
事業所名	グループホームたまよし		
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1		
自己評価作成日	平成27年10月14日	評価結果市町受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiryousoCd=3770300329-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成27年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人に対する、尊厳を大切にして、ゆとりを持って、対応するようにしています。また、得意分野を引き出すことに努め、御入居者が不安にならないように配慮しています。認知症高齢者の介護施設で経験し、他のスタッフ(作業療法士や管理栄養士等)との交流も気軽にできるので、御入居者・職員が安心して生活・仕事ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

医療法人が運営する事業所で、老人保健施設や有料老人ホームを併設している。老人保健施設と合同で、毎月身体拘束防止委員会を開催し、見守りや用具の工夫など、身体拘束をしない介護について話し合っている。また、職員の意見は、事業所内だけでなく、法人リーダー会や幹部会でも検討し、法人全体で、組織的にサービス向上に向け検討している。終末期の介護に関し、持続的な医療行為が必要な場合は、併設の老人保健施設の医師や看護師との連携により、住み慣れた所で終末期を迎えられるよう支援している。管理栄養士が、利用者と直接会話し、好みの食材やメニュー、食事形態等の希望を聞き、美味しく食べられるよう希望を反映している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔でゆとりを持って」を事業所の目標とし、実践している。法人全体の理念と同様に共有して、地域ともに笑顔があふれるホームになれるように努めている。	理念は、開設2年後に職員と話し合い見直している。法人の理念を踏まえ、利用者を尊重し、地域で笑顔あふれる暮らしができるよう、ゆとりを持って対応することを目指している。日々の実践場面での言葉や態度等について、ミーティングや申し送りで話し合い、理念の具体化に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(文化祭・祭り)に参加し、ボランティアの方と交流を増やせるように努めている。自治会主催の防災訓練にも参加している。保育園との交流もある。	地域の文化展に職員や利用者の作品を出展している。自治会主催の山火事災害訓練に職員が参加している。地域の保育園やボランティアと交流があり、利用者の敬老会時の演芸等に協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の対応や実践したことなどを、運営推進会議で話合ったりして、サービス向上に向けて取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価について話をする機会をつくり、地域の方との交流が増えるように、サービスの向上に取り組んでいる。開催頻度は2か月に1回のペースで1年間に6回開催できるようにしている。	運営推進会議には、地域からは元婦人会長が参加している。会議後に次回の議題を伝えたり、案内状を出すなど、積極的に関わられるようにしている。会議では研修予定、行政から認知症行方不明者の早期発見への協力依頼等がある。	地域のことを良く知る人やボランティアなど、運営推進会議の参加者を広げることを期待したい。協議するテーマにより参加を呼びかける範囲を広げるなどの工夫をされることを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催のグループホーム協議会で、ターミナルケアに関する相談や地域の活動の様子・他のグループホームの様子等や認知症相談窓口等を作り協力関係を築くようにしている。	市主催のグループホーム協議会で、他のグループホームの活動状況等の情報交換やターミナルケアに関する相談等の機会がある。市町の担当者に事業所の考え方や現場の実情等を伝えている。また、意見や苦情等があった時に、相談し、指導を受けている。また、事業所が認知症相談窓口になるなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を一カ月に1回実施し、職員も御利用者一人ひとりの状態等把握し、見守りや連携ができるように努めている。	毎月勉強会を開催し、年1回は身体拘束の対象となる行為について話し合い共有している。毎月、身体拘束防止委員会を法人の3つの老人施設合同で開催し、点滴中の見守り、リクライニング車いすの滑り止め座布団の工夫等、身体拘束しない介護について話し合い、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている	勉強会等で、高齢者虐待防止に関する理解を深め、遵守に向けた取り組みができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要なケースは余りなく、職員間で話し合う機会は少ないが、必要があれば支援して行くように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者本位の理念とともに、地域の中で暮らしていけるように支援している。将来のことを含めて、疑問等を引き出し、十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者は、日常の支援の中で意見を聞き、御家族は面会時に確認している。要望や意見があれば苦情対応委員会などで話し合い、運営に反映できるようにしている。	利用者からは日々の会話や入浴介助時に意向を聴いたり、しぐさや表情から希望を確認している。家族からは、面会時に居室や相談室で要望等を話し合い運営に反映している。事業所の苦情相談窓口や外部の苦情相談申し立て機関について、入所時に説明している。要望や意見は、苦情対応委員会などで検討し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングのほか、随時連絡帳で意見を提出している。意見を述べやすい雰囲気作りをして、職員の気づきやアイデアを、幹部会等で話し合い、業務改善が出来るように機会を設けている。	管理者は、連絡帳に職員が意見を記入した時は、その都度や毎月のミーティングで話し合っている。特に安全に関する意見は、速やかに対応している。また、併設の老人保健施設との合同リーダー会や幹部会で、職員の意見や気づきを話し合い、業務改善やマニュアル等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は御本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の機会を、段階に応じて、なるべく多くの職員に受講できるようにしている。また、勉強会等で発表してもらい、研修資料等を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等で、同業者との交流の機会があり、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者の気持ちを受け止め、安心して過ごしていただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について、ゆっくり話を聞き、ニーズに対応できるように、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人や御家族の思いを大切に、必要なサービスにつなげるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者の得意分野を、発揮してもらい、ともに過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者の様子を伝え、良い関係を築いて行けるための支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーが事業所に商品を届けてくれたり、御家族の了解のもと、知人との外出などが出来るように努めている。	入所時に、家族等からこれまでの馴染みの人や場所を確認している。利用者が知人との外出を希望した時は、職員は家族の了解を得ている。併設の老人保健施設と合同で、月2回買い物日を設け、地元のスーパーから商品を届けてもらい、欲しい物を購入する等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容院の利用は、家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の仲の善し悪しに配慮し、孤立してしまわないように、支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、経過を見守ったり、相談の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、信頼関係を築き、ご利用者の意向をそれとなくお聞きしたり、ご利用者の表情やしぐさやご家族や知人から情報を得たりしている。	日々の関わりの中で、職員が自分のことを話すなど、利用者との信頼関係を築くよう努めている。会話だけでなく、表情やしぐさから利用者一人ひとりの希望や思いを把握している。家族や知人から昔の情報を聞き、利用者の思いを把握している。把握が困難な場合は、職員や関係者等とで、利用者の真の思いは何かを、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、御利用者本人からお聞きしている。また、御家族の力を借りながら、継続的に、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者の生活リズムを把握して、できる力を暮らしの中で、発見できるように、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、御本人や御家族の思いや意見を聴き、繁栄できるように努めている。また、職員間で話し合ったアイデアも取り入れている。チェック表を利用して見直しの時期に役立てるようにしている。	介護計画作成担当者は、利用者や家族から生活に対する意向を確認して、介護計画の原案を作成している。その後、申し送り後等に話し合う時間を取り、職員の意見やアイデアを反映させて介護計画を作成し、利用者や家族の同意を得ている。介護計画は、状況チェック表やモニタリングを基に3か月ごとに見直している。また、利用者の状況が変化し、必要性があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の要望により、臨機応変に対応している。通院や送迎の支援も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や朗読などのボランティアに来ていただいたりして、地域の人々の力を借りて支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の今までのかかりつけ医や希望の病院で受診できるように支援している。	入所時に、利用者の受診状況を把握し、希望するかかりつけ医や病院での受診を支援している。車イスを使用している利用者が専門医を受診する時は、車で送迎している。歩行可能な利用者が受診する際は、家族の協力を得ている。受診結果は、家族と職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に、利用者が身体状態の変化があった時、伝えるべきポイントを理解して、連携を行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、混乱が生じないように、御本人の情報や看護サマリー等を作成して特徴を伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人や御家族の意向を踏まえ、随時意見を確認しながら、医療機関と密に連携を図り、対応している。終末期に関しては御本人やご家族の希望をお聞きして、対応できる事と出来ないことを話し合いするように取り組んでいる。緊急時に備えて、家族用の簡易ベッドを用意している。	入所時に、重度化や終末期のあり方について、本人や家族等と話し合い、方針を共有している。利用者の状況が変化した時には、改めて本人や家族の意向を確認している。終末期に持続的な医療行為が必要な場合は、当事業所での支援が難しくなることを説明しているが、併設の老人保健施設の医師や看護師との連携で、対応が可能な場合は支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しているが、定期的に勉強会等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、併設の老人保健施設と合同で消防の避難訓練を行っている。土砂災害の訓練も実施して、地域の防災訓練も参加できるように努力している。	併設の老人保健施設と合同で、毎月災害訓練を行っている。夜間想定火災時の訓練が多く、土砂災害想定訓練を2回、地震想定訓練を1回実施している。訓練時に消防署職員等の指導は受けていない。グループホームが火元となる想定での訓練は少なく、地域住民の協力が課題である。	老人保健施設と合同訓練の際に、当事業所を火元と想定する訓練の定期的な実施を検討されたい。また、災害時は様々な状況が発生することになり、職員だけの対応では限界があるので、地域住民と具体的協力体制を築く取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者の尊厳を尊重し、自尊心を傷つけないようチーム間で話し合い対応している。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、その人らしく自尊心を傷つけないよう努めており、対応が気になる時は、その場や申し送り時に話し合いをし、職員が対応を考えるようにしている。排泄介助時は、誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉かけに注意している。また、日々の言葉には注意し、利用者を名前で呼んだり、丁寧な言葉づかいや語調に注意し、命令口調にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者本人が決める場面を作り、支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを大切に、その中で1人ひとりのペースに合わせた対応を、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てる支援をしている。衣類の汚れ等は、プライドを守り、さりげなく支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等を、御利用者と共に 行い、前向きにやってみたいと言う気持ちを 引き出すように声かけしている。御利用者 の方が食べたいものや栄養状態を栄養士 の方と相談したりもしている。	献立は併設の老人保健施設の管理栄養士 が作成し、副食は施設厨房で調理し、温冷配 膳車で事業所に届けられる。主食は、事業所 で炊飯し、利用者にあった形態にして提供し ている。管理栄養士は、利用者と直接会話 し、食材の好みやメニューの希望を把握し て、献立に反映している。利用者の力を活かし、 声かけをし、お汁の温めやおやつ作り、 食事の準備や片付け等を、職員と一緒に 行っている。職員は、利用者と一緒に食事を し、食事前の嚥下体操やメニューについて会 話をするなど、食事が楽しくなるよう支援をし ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量チェックし、むせたり、飲み込みが悪 くないか、気をつけている。一人ひとりの好 みに応じた食事をできる限り、したいと考 えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	嚥下体操を実施したり、自分でできる方は、 声かけや見守りをし、出来ない方は、職員 が介助している。定期的に歯科受診を行 い、口腔の清潔の維持、指導ができるよう に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者の様子などを察知し、手をさしの べたり、介助をしている。トイレでの排泄を 大切にして、一人ひとりに合わせて対応し ている。	トイレでの排泄を目指している。食前、食 後、食後1時間、食後2時間等、利用者の排 泄パターンや習慣を活かし、トイレ誘導して いる。また、表情やしぐさから察知して支援し ている。また、立位のとれない利用者には、ト イレで排泄介助し、排泄の自立に向け支援し ている。排泄介助にあたり、安全確保やプ ライバシーの確保、羞恥心の軽減等に注意し ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	水分補給、散歩など適度な運動をしてもら ったり、積極的に取り組んでいる。食事のバ ランス・薬の調整も、個々に合わせて対応し ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御利用者のその日の希望に応じて、声かけ・誘導など個別に対応している。曜日に関係なく毎日入浴出来るようにしている。	毎日でも入浴できるように準備している。希望の時間にゆっくり入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者には、タイミングの工夫や家族の面会時に介助するなど、状況に応じた支援をしている。また、入浴介助の際に、車イスが浴室に入りにくいことからドアを改修して安全確保し、利用者個々の不安感や恐怖心、負担感等の状況について共有し、入浴を楽しめるよう支援をしている。可能な限り調整して、異性介助を避けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者が安心して、休息できるように日中の活動を促したり、生活リズムを整えるように支援をしている。眠剤を飲まれている方には、日中の活動の妨げになっていないか、確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を行い、職員は薬の内容について、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野(畑仕事・ピアノなど)で、一人ひとりの力を発揮してもらえるように、仕事を頼んだり、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、時間の取れる限り、外出の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設車両が空いている時やイベント時に外出支援をする。また、御家族の方の協力のもと外出ができるように支援している。	事業所周辺が、坂道になっていることもあり、利用者から積極的な希望はないが、気候がよい日に近くの神社への散歩に利用者を誘い戸外に出かけている。車で地域のイベントへの参加を支援している。また、入口まで車で入れる神社に初詣に行ったり、普段行けない季節の花見等への外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の協力を得て、少額のお金を持っている方もいますが、管理が困難な方には、買い物をするときに所持してもらい、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は、御本人が好きな時に使用してもらっている。設置場所も、離れているためプライバシーの配慮もできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改装により照明を変更したり、季節感のある花など、御家族や職員が持ってきてくれたりしている。また、希望者には月一回華道教室に参加してもらい、季節感のある花を居室に飾っていただいている。	職員は共用空間は明るく清潔であるよう努めている。リビングの照明は、明るくオレンジ色で温かさを感じる。職員が手助けし、利用者の可能な範囲で、床の清掃や食後はテーブル拭き等を行い、清潔を保っている。共同トイレや汚物室の消臭、清潔に努めている。リビングでは、車イスで移動しやすいようにテーブルを配置し、安全性に配慮している。日めくりカレンダーや献立表、利用者の習字やぬり絵などの作品を、廊下の壁に掲示している。また、季節の花を生けるなど、季節感が感じられ、居心地よい空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置き、少人数でもくつろげるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品物や写真などが持ち込まれ、御利用者の安らぎが感じられるように、御家族に協力してもらいながら、配慮している。	居室にはベッドやトイレ、洗面台、整理ダンス、床頭台が設置されており、ベッドは使いやすいように配置している。寝具は、使い慣れた自分の物を使っている利用者がある。シーツの洗濯は、定期的に事業所で行っており、清潔である。利用者によっては、馴染みの整理ダンスを持参している。部屋には小物や孫の成人式の晴れ姿の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、流すボタンやゴミを捨てる場所などに目印を付けて、自立した生活ができるように配慮している。職員も、混乱や失敗がないように、話し合い対応している。		